令和2年度 学校マネジメントシート

学校名 (飯野高等学校 定時制)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<ul style="list-style-type: none"> 充実した多文化共生教育やキャリア教育をとおして、多様な学習ニーズを有する生徒たちが自信と誇りをもって社会で生きる力を養成する学校 生徒たちが将来、社会の構成員として生活し、これからの新しい社会を創造していく力を育むことのできる学校
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> 自分から大きな声で挨拶をし、時間や期限を守り、適切な言葉遣いができるなど、社会人として必要な素養を習得することができる生徒 漢字能力、計算能力、英語能力や外国人生徒については日本語能力など、社会生活を営むうえで必要な基礎学力を習得することができる生徒 自他を大切にす豊かな人権感覚と自己有用感を持ち、人間関係形成能力の高い生徒
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> 高い専門的知識・能力と指導力を有し、情熱を持って教育活動に取り組み、生徒の意欲や向上心を喚起できる教職員 学習指導や生徒指導等の教育活動において、粘り強く生徒に接し、理解に努め、一人ひとりの生徒にきめ細かく対応できる教職員 豊かな人権感覚を持ち、命の大切さを様々な学習活動の場で生徒に教え導くことのできる教職員 新たな取組に積極的にチャレンジする向上心を持ち、他の教職員と協力して学校経営や教育内容の向上を目指すことができる教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>〈生徒〉 学力向上(日本語能力を含む)と進路希望(進学・就職)を実現する学校</p> <p>〈保護者〉 学校からの丁寧な情報発信などによって家庭と連携を密にする学校</p> <p>〈地域社会〉 定職を持ち地域社会の担い手となる人材を育成する学校</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<p>連携する相手からの要望・期待</p> <p>〈中学校〉 不登校経験者や外国人生徒など多様な生徒の受け入れと中高間の連携強化</p> <p>〈事業所〉 基礎学力の向上と社会人マナーの習得</p>	<p>連携する相手への要望・期待</p> <p>〈中学校〉 目的意識を持ち、学校生活に適応できる生徒の育成</p> <p>〈事業所〉 在学中の雇用と卒業時の正規雇用</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<p>○生徒会行事の生徒満足度の高さから、行事を通じてコミュニケーションが苦手な生徒が人と接することで生徒の成長を感じるとともに生徒会役員による行事内容の充実を感じる。</p> <p>○アンケートの実施において、数値だけに捉われると本質的な課題を見逃してしまうことがある。また、作業量が増えてしまうことで働き方改革に結びつかなくなる。</p> <p>○外部人材を活用した取組が充実しているのはすばらしい。外部人材を活用した継続的な取組など、一定の成果は出ている。外部人材の活用によって、生徒の支援・成長につながる取組を次年度も継続して推進する。</p>	

(4) 現状と課題	教育活動	<p>教職員の不断の努力によって全体として落ち着いた良い雰囲気になってきている。しかし、近年、多様なニーズや課題を抱える生徒は増加傾向にある。そのような中、さらなる教育活動の充実に向けて、以下の取組を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 社会生活を営むうえで必要な規範意識を確立させること。 ② 義務教育段階の学習内容を含めた高校生に求められる基礎学力の確実な習得、及び日本語能力の向上に取り組むこと。 ③ 適切な人間関係を形成する力、自分の価値を認識しつつ他者と協働できる力を育成し、自尊感情を高めること。 ④ 多文化共生の精神を育成し、地域社会の構成員として共に生きる力を培うこと。 ⑤ 進路保障や生徒指導の充実のために関係機関との連携を一層強化し、個々の進路希望を実現させること。
	学校運営等	<p>ますます多様化する生徒のニーズや課題に対応するために全教職員の共通理解と関係機関とより連携して、以下の取組を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 教職員や生徒、保護者にとって安心安全な教育環境を整えること。 ② 生徒の多様なニーズに応えるため、教職員の指導力、授業力などの向上に努めること。 ③ 分掌や係の仕事を複数の教職員で共有・分担して、チームで業務を遂行することを一層定着させること。

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ol style="list-style-type: none"> ① 授業規律や出席を重んじるとともに、学習意欲を向上させ、安心して登校し落ち着いて学習に取り組むことができるよう生活・学習の両面から支援し、学力の向上を図る。 ② 自他を尊重する人権意識と自己有用感を高め人間関係形成能力を育成する。 ③ 進路保障の充実を図る。特に外国人生徒の進路保障に向けて一層強化する。 ④ 特別支援体制の充実や個に応じた生徒指導を推進するために外部との連携を取りながら効果的な支援体制を構築する。 ⑤ 地域教育力の導入及び生徒が地域や小中学生と交流を行うなど、地域に目を向けさせ、地域に貢献できる人材を育成する。
学校運営等	<ol style="list-style-type: none"> ① 生徒や保護者にとって安心安全な教育環境を整えるために、適切な情報管理と生徒・保護者のニーズの把握を行う。 ② 生徒、保護者、地域へ教育内容を積極的に情報発信して、定時制生徒への理解と協力を深める。 ③ 生徒の多様なニーズに応えるため、JSLカリキュラムや特別支援教育に関する研修等を推進して、教職員の専門性や指導力の向上を図る。 ④ 生徒の学習意欲や学力向上のために相互参観や研修を行い、授業力向上を推進する。 ⑤ 教職員が充実した業務を行うため、総勤務時間の縮減や職場の環境整備に取り組む。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
① 授業規律の確立、学習意欲の向上、安心して学習に取り組むことができるための生活・学習の両面からの支援、学力の向上のための取組 (生徒指導) (保健指導) (学習指導)	(1) 規範意識の確立 ○活動指標 ・校内、校外の巡回指導を実施 ○成果指標 ・問題行動による特別指導件数年間10件以下	(1)適宜校内、校外の巡回を実施 問題行動 10件	
	(2)基本的な生活習慣の確立 ○活動指標 ・保健だよりによる啓発、年間9回以上 ○成果指標 ・生活アンケートにおいて、「朝食をとる」50%以上	(2)保健だよりを年間9回発行 6月アンケート 51.3% 12月アンケート 47.9%	◎
	(3)学習意欲の向上・授業を大切にすることの意識づけのための取組 ○活動指標 ・校務支援システムによる出欠管理と日常的な出席促進指導 ○成果指標 ・個人面談実施率90%以上 ・年間授業出席率70%以上	(3)個人面談実施率95%(長期欠席以外全員実施) 授業出席率64.8%	
	(4) 基礎学力の向上・わかりやすい授業のための工夫 ○活動指標 ・授業公開、授業改善日を設定し(年間5日)、生徒からの授業評価を実施 ○成果指標 ・生徒の授業内容の満足度評価「4」(4段階評価)70%以上	(4)10月のみ4日間実施「4」58.0% (「3.4」の合計は86.1%)	※
	(5)授業規律の確立 ○活動指標 ・非常勤講師も含め、出席・授業態度等の授業規律について教員間で意思統一を図り、全教員で一致して指導を行う ・学びノートの活用と定着 ○成果指標 ・単位修得率90%以上	(5)単位修得率 前期 90.7% 後期 84.1% 通年 85.4%	

<p>② 自他を尊重する人権意識と自己有用感を高め人間関係形成能力の育成 (人権教育) (生徒指導)</p>	<p>(1) 自他を尊重する人権意識や自己有用感に裏付けられた自尊感情の涵養 ○活動指標 ・面談による個人相談を年5回実施 ○成果指標 ・いじめ認知件数3件以下</p> <p>(2) 命を大切にする教育の充実 ○活動指標 ・アンガーマネジメントやセルフコントロールトレーニング・人権を大切にするをテーマにした講演会やワークショップを前期、後期各1回以上実施する。 ○成果指標 ・生徒アンケート安心・安全満足度85%以上</p> <p>(3) 人間関係形成能力の育成 ○活動指標 ・なかまづくりを目的とした学校行事を年4回実施 ○成果指標 ・アンケート調査における満足度80%以上</p>	<p>(1)5・7月に個人面談、9・10月に三者面談を実施 いじめの認知件数3件 前期2回、後期2回実施 安心・安全満足度87.7%。 (3)コロナウイルス感染拡大防止の観点から体育祭、百人一首大会、卒業生を送る会を中止。文化祭、新生徒交流会は規模を縮小して分散開催。 満足度調査は実施していない。</p>	
<p>③ 進路保障の充実 (進路指導)</p>	<p>(1) 個々の生徒のニーズに応じた求人開拓 ○活動指標 ・企業訪問および企業説明会での対応企業数70社 ○成果指標 ・学校斡旋による就職希望者全員の正規採用の実現 ・卒業予定者の就職希望の求人充足</p> <p>(2) 学校斡旋就職者の定着 ○活動指標 ・追跡調査を定期的実施し、早期離職者などを把握</p> <p>(3) 「総合的な学習(探究)の時間」での実施を主とした進路指導のプログラム化とリアルな職業観・勤労観を育成するキャリア教育(社会人基礎講座)を計画的に実施する。 ○活動指標 ・キャリア教育・社会人基礎知識の指導講座、体験型学習等を年間5回以上実施 ○成果指標 ・振り返り(アンケート)を行ない、生徒の意思を汲み取る。</p> <p>(4) 進学希望者の進路実現ための取組 ○活動指標 ・進学希望者の進路実現のための受験科目の教科による個別指導の実施 ○成果指標 ・進学希望者の合格率100%</p>	<p>(1)対応企業数44社 学校斡旋による内定者4名 内定率100% (3)10月の職業別ガイダンスを含め進路指導関連の総学指導を3回実施 満足度96.2% (4)進学は総合型選抜・指定校推薦入試希望者が多い。 2月末進学合格者4名。合格率100%</p>	<p>◎</p>

<p>④ 特別支援体制の充実、個に応じた生徒指導を推進するために、外部との連携や効果的な支援体制の構築（特別支援教育）（生徒指導）</p>	<p>(1) 学校の構造化を推進し、教育環境を整えながら合理的配慮の提供方法を検討する。</p> <p>○活動指標 ・授業担当者会議、ケース会議の開催</p> <p>○成果指標 ・支援を要する生徒の「個別の教育指導計画」100%作成</p> <p>(2) 関係機関と連携した生徒指導の充実</p> <p>○活動指標 ・SSWや関係機関との連携による個々の生徒に応じた適切な生徒指導、支援を行う。</p> <p>○成果指標 ・生徒指導、支援を必要とされる生徒の減少</p>	<p>(1) 9月に1年次生授業担当者会議を開催 支援を要する生徒4名について100%作成</p> <p>(2) 関係機関、SSWとの連携、特別支援コーディネーター、養護教諭との情報共有を密に実施 支援が必要な生徒のうち2名が卒業（1名進学）</p>	<p>◎</p>
<p>⑤ 地域に貢献できる人材を育成するために、外部教育力の導入及び生徒による地域交流（地域連携）</p>	<p>(1) 地域人材を活用した講演会やワークショップの実施</p> <p>○活動指標 ・講演会等の月間1回以上の実施</p> <p>○成果指標 ・振り返り(アンケート)を行ない、生徒の意思を汲み取る。</p> <p>(2) 地域奉仕活動</p> <p>○活動指標 ・地域清掃奉仕活動を年間1回実施</p> <p>○成果指標 ・在学生徒の80%以上が参加</p>	<p>(1) 総合学習において多文化理解・進路・消費者教育・主権者教育などの分野で外部講師による講演を8回実施</p> <p>アンケートの結果で理解できたと回答した生徒 95%</p> <p>(2) 7月29日(水) 雷雨のため中止</p>	<p>◎</p>
<p>改善課題</p>			
<ul style="list-style-type: none"> ・校内における生徒の様子として、落ち着いた雰囲気になっているが、校外での問題行動が何件かあった。校内に留まらず校外指導にも力を入れる必要がある。 ・登校はしているが、授業に参加しない生徒を見かけることが度々あった。生徒に声かけなどを行い、授業出席率や単位修得率の向上に努める。 ・学校斡旋により就職する生徒が増えてきているが、進路選択の意識づけや社会人として必要な力、日本語力の定着を見据えたキャリア教育を系統的に実施することでさらに進路保障に努める。 ・支援が必要となる生徒の卒業率の向上や卒業後の進路保障に向け、個々の生徒に応じた適切な支援ができるよう支援体制をつくる。 			

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
① 教職員や生徒、保護者にとって安心安全な教育環境の整備・適切な情報管理 生徒・保護者のニーズの把握、 生徒・保護者・地域への情報提供 (情報管理) (サービス遵守)	(1) 生徒・保護者のニーズの把握 ○活動指標 ・生徒・保護者アンケートの実施 年間1回 ○成果指標 ・アンケート結果から生徒・保護者の意思を汲み取る。 (2) 生徒・保護者・地域への携帯メール、学校HPでの情報提供 ○活動指標 ・年間15回以上実施 ○成果指標 ・携帯メール、学校HPの利用率80%以上 (3) 学校情報や個人情報の適切な管理・サービス遵守のための取組 ○活動指標 ・情報管理状況点検 年間1回実施 ・コンプライアンス研修 年間1回実施 ○成果指標 ・点検結果等 (4) 安全点検の実施 ○活動指標 ・年間3～4回以上の実施。 ・外部団体等との連携による安全確認の実施 ○成果指標 ・点検結果等	12月に実施 昨年度より学校設備の項目で3.5 ポイント、学習指導の項目で7.8 ポイント改善。 (2) 学校HPの内容の更新やマチ コミメールによる 生徒・保護者連絡 29回実施(2月末) 携帯メール等の 利用率81.4% (3) 4月に情報管理 状況の点検を 実施 異常なし (4) 夏季休業中に 安全確認を実施 異常なし	※
② JSLカリキュラムや特別支援教育等に関する研修等の推進、 資質向上 (研修推進)	(1) 教職員研修の充実 ○活動指標 ・「授業力向上のための研修」、「外国人生徒や特別な支援の必要な生徒を指導する力を向上させるための研修」、「命を大切に する教育を推進するためにアンガーマネジメントやセルフコントロール トレーニング等に関する研修」等年間3回以上実施 ○成果指標 ・職員アンケート研修満足度85%以上	(1) 5月にオンライン授業に係る研修、12月に全定 合同で人権研修を実施 満足度 86.3%	◎
③ 生徒の学習意欲や学力の向上のための、 相互参観や研修等 教員の授業力向上の推進 (授業改善)	(1) 授業改善・教科指導力の向上のための取組 ○活動指標 ・教員の相互参観による「授業見学シート」を活用した相互 研修及びアクティブ・ラーニング等授業研修の実施 ○成果指標 ・職員アンケート研修満足度85%以上	(1) 授業公開期間に相互に参観を 実施 満足度 90.9%	◎

<p>④ 総勤務時間の縮減や執務環境整備 (職員健康管理) (職場環境改善)</p>	<p>(1) 総勤務時間の縮減と環境整備、安心、安全な職場環境づくり</p> <p>○活動指標 ・設定した日(年間15日)の定時に退校できた職員の割合 90%以上</p> <p>・放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合90%以上</p> <p>○成果指標 ・総勤務時間の縮減の推進</p> <p>1人当たりの月平均時間外労働 5時間以下 年間360時間を超える時間外労働者数 0人 月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 0人</p> <p>・1人当たりの年間休暇取得日数25日以上 ・夏季休業中における学校閉校日の設定4日</p> <p>(2) 執務環境整備と安全、安心な職場環境づくり</p> <p>○活動指標 ・パワーハラスメントをはじめとする様々なハラスメントに対する指針の策定及び未然防止対策</p>	<p>定時退校できた職員の割合 95.5%</p> <p>60分以内に終了した会議の割合 84.0%</p> <p>1時間30分 0人 0人 23.8日 8月11日～14日に実施(4日)</p> <p>リフレッシュルームの改装 職員会議等において「行動計画」等の周知徹底</p>	<p>※</p> <p>※</p> <p>◎</p> <p>※</p>
--	--	---	-------------------------------------

改善課題

- ・生徒・保護者などへの携帯メール、学校HPでの情報提供について、活動指標と成果指標ともに達成できているが、個人面談や集会などで利用案内を周知し、利用率をさらに向上させる。
- ・本年度はコロナの影響で外部の方への授業公開はできなかったが、今後、保護者等外部の方からの声を踏まえた授業改善が必要である。
- ・総勤務時間の縮減のために、会議の時間短縮に向けた議題の精選や打ち合わせを行ない、改善に努める必要がある。

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●授業の出席率について改善が必要と思われる。学校として授業に出ることが一番大切であり、日常的な出席促進指導の取組を一層推進する。 ●多様な生徒が在籍することから、定時制におけるキャリア支援には様々な形がある。進学や就職の実態について卒業後2、3年経った先輩から直接話を聞くことで、進路選択についての意識付けができる。 ●ICT機器を用いて外部人材を活用した取組が充実しているのはすばらしい。講演について、生徒の理解度も高く一定の成果は出ている。今後も外部人材等を活用して、生徒の成長につながる系統的な取組を継続して行なうとよい。
----------------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none">① 授業、「総合的な探究の時間」や学校行事、日常の生徒指導などさまざまな教育活動の中で、善悪の判断や交通マナーなど、社会で生きていくための力を育む。② 生徒の学習意欲を向上させるため、ICT機器などを活用した授業改善と日常的な出席促進指導（声かけなど）を行い出席率の改善を図る。③ 多様な生徒が自らの進路を見すえた進路選択ができるように、卒業生などの外部教育力を取り入れたキャリア教育を推進する
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none">① 中学校対象アンケートでは、回答数が少ないながらも本校の教育活動等に対して一定の理解が示されていた。今後、中学生や地域に向けて、飯野高校の定時制の特色などをより効果的に発信していくしくみを作る。② 授業力の向上、人権教育、キャリア教育等の指導力向上のための教員研修の充実を図る。③ 生徒の学校生活における満足度について、アンケートを実施するだけでなく、個人面談や日常の学校生活における教員の観察をとおして生徒の様子把握に引き続き努める。